

ダイレクトロード「初めての町」

短縮版

中学校・高校の授業時間内で完結できるようにした短縮版です。その他の方は通常版をご利用ください。周りの人たちとのコミュニケーション能力・人々を導くためのリーダーシップ・飛び交う情報を整理する判断力を身につけましょう。

1 対象および人数

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 対象 | 中学生・高校生 |
| (2) 1グループ | 5人～7人（複数のグループで同時実施可能） |

2 必要なもの

- | | |
|------------------|----------------|
| (1) 説明書・地図・課題シート | グループに1セット |
| (2) 情報カード 22枚 | グループに1セット |
| (3) 結末シート 5枚 | 全体に1セット |
| (4) 筆記用具 | グループに鉛筆数本・消しゴム |
| (5) 全体の進行役 | 1人 |

3 実施方法

- (1) 各グループに「説明書」「地図」「課題シート」「情報カード」を配置します。
- (2) 参加者に「情報カード」を裏向けて1枚ずつ全て配ります。
- (3) 想定とルール説明後、ゲームをおこないます。
- (4) スペース的に可能であれば、「結末シート」を教室の四隅と中央に配置します。
- (5) ゲーム終了後、振り返りとまとめをおこないます。

4 所要時間

合計45分

- | | |
|----------|---------------|
| (1) 事前説明 | 5分 |
| (2) ゲーム | 30分 |
| (3) まとめ | 10分（結末確認時間含む） |

5 想定状況

ここは、赤茶色の瓦屋根が連なる美しい町です。あなたは町を訪れた観光客で、たった今、中央にある米塩広場に到着したところです。突然、スマホの緊急地震速報が鳴り響き、激しく長い揺れに襲われました。あなたは幸い怪我をせずに済みましたが、これから土地勘のない町で、どうすれば良いか分かりません。手元には旅行者向けの簡単な地図が1枚あるだけです…。

6 ゲームのゴール

自分たちが選んだ避難先に向かい、下した決断の結末を確認して終了です。

7 注意事項

このゲームの適用は津波到達までに時間的余裕がある場合です。津波がすぐに到達する地域では、ただちに高台へ避難しなければなりません。

※ 引用・参考文献

西條剛央, 2021. 『クライシスマネジメントの本質～本質行動学による3・11大川小学校事故の研究～』, 山川出版社。

進行役進行票（1/3） スタート前

5 分間

シナリオ

ここ数年、大きな地震が全国で多発しています。近い将来には南海トラフ地震が発生すると言われており、皆さんの多くは人生のどこかで大地震に遭遇する可能性があります。

ダイレクトロード「初めての町」は、自分が暮らしている場所ではない場所で大地震に遭遇した状況を疑似体験するゲームです。例えば旅行先で大地震に遭遇すると、避難場所はどこか、今いる場所は海の近くなのか、標高は何メートルなのか、あるいは東西南北すら分からないかもしれません。

そんな時でも落ち着いて、周りにいる人たちと力を合わせて助かる道を探しましょう。それでは、テーブルの上にあるカードを裏向きのままトランプを配るように、皆さんに全て配ってください。自分に配られたカードは見ても構いません。

（カードを配り終えて少し経ったら↓）

ゲームの状況設定を読み上げます。地図を見て思い浮かべながら聞いてください。

「ここは、赤茶色の瓦屋根が連なる美しい町です。あなたは町を訪れた観光客で、たった今、中央にある米塩広場に到着したところです。突然、スマホの緊急地震速報が鳴り響き、激しく長い揺れに襲われました。幸い、あなたは怪我をせずに済みましたが、これから土地勘のない町で、どうすれば良いのかわかりません。手元には旅行者向けの簡単な地図が1枚あるだけです…。」という状況です。

次に課題です。これから皆さんに取り組んでもらうことです。

課題1。他の観光客の言葉から避難先の候補となる場所を5か所見つけてください。

そして、それぞれの場所の安心材料・心配材料を書き出してください。

課題2。自分たちが、どこに避難するか決断してください。

配られたカードは、地元の人や皆さんと同じ観光客が言っている言葉であったり、避難先を選ぶための大切な情報です。それぞれが持っている情報を伝え合い、自分たちがどこに避難するか決めてください。

ルールです。自分に配られたカードは他の人に見せてはいけません。カードの内容は全て言葉にして口頭で伝え合ってください。分かった情報を地図と課題シートに書き込みながら進めてください。情報を整理する手助けになります。

進行役進行票（2/3） ゲーム中

30 分間	シナリオ
スタート時	<p>それではゲームを始めます。地震の揺れの後、スマホは通話もネットも繋がりません！町の防災スピーカーからは、「大津波警報が発令されました！急いで高台に避難してください！」という放送が聞こえてきました。課題シートの防災スピーカーの絵の右横に、大津波と書き入れてください。</p> <p>今から 30分以内に自分たちがどこに避難するか決断して避難してください、ということで制限時間は 30分です。では、スタート！</p>
10～20分頃 頃合いを見て	<p>カードにある鬼門とは、北東の方角を意味します。 また、一里というのは、約4 kmの距離です。</p> <p>このゲームは、自分たちが行きたい場所を自由に選ぶゲームではありません。お互いに情報交換することで、自分たちの命を守る場所は、ここしかないという場所を選んでください。</p> <p>不思議な階段が書かれてあるカードは、 「こんな状況に陥らないように！」 という皆さんへのメッセージです。（話が堂々巡りしてしまうこと）</p> <p>避難先が決まったグループは、その場所まで避難してください。 （可能であればゲーム中に、山折りにした「結末シート」を教室の四隅と中央に配置する。無理ならそれぞれの机で待機してもらおう）</p>
25分経過 『最終決断』	<p>あと5分で終了です。避難先がまとまらないグループは、一人ひとりが自分の避難先を決めて、バラバラに避難してください。</p>
30分経過 『ゲーム終了』	<p>ゲーム終了です。</p>
5分間 『結末確認』	<p>それでは、それぞれの結末を確認していきます。 （誰も選ばなかった場所は進行役が結末を読み上げる） （人数が少ない場所から順に、参加者に読み上げてもらおう）</p> <p>（すべての結末を確認したら席に戻ってもらおう） では、席に戻って、他の人がどんなカードを持っていたのか見せ合ってください。</p>

進行役進行票（3/3） ゲーム終了後

5分間

シナリオ

最後に、今回のゲームを振り返ります。
人間には命に関わるような危険が迫っても「自分だけは大丈夫」、「今まで大丈夫だったから大丈夫」と思い込んでパニックを起こさないようにする心の働きがあります。加えて、周りの人と同じように行動して安心するという特性もあります。

なぜ米塩広場には、津波が来ると言う地元の人が誰もいなかったのでしょうか？ それは、津波が来る、と思った住民は最初から浜一里神社に向かったからです。米塩広場には、津波なんか来ない、と思った住民しか残っておらず、お互いの逃げない姿を見て安心していただけです。

今日、皆さんが体験したのは架空の町の架空のお話ですが、このゲームは、過去の大地震で実際に起こった悲劇が基になっています。

その悲劇は、ある小学校で起こりました。その小学校がある地区には大きな川が流れ、標高は低いものの海から4キロ近く離れており、地元の人達には海に近いという感覚はありませんでした。また、大地震の1年前にも大津波警報が出たことがありましたが、その時は何事でもありませんでした。

大地震の日、2階建ての校舎で上れる屋上が無かった小学校では、子どもたちをグラウンドに集めていました。すぐ隣にある裏山では、数年前に土砂崩れがあり、余震が続く中で子どもたちを登らせるのは、ためられました。

「思い込み」や「過去の経験」や「地理的な状況」が全て裏目に出てしまい、堂々巡りの話し合いの末、危険はあっても結果的にその選択肢しかなかった裏山ではなく、小学校よりも数メートル高くなっているという、川の近くの場所を目指して移動していたところを、川を遡ってきた津波に巻き込まれ、ほとんどの子どもたちが命を落としてしまいました。地震発生からおおよそ50分後のことでした。

私たちは、この悲劇を繰り返す訳にはいきません。津波から逃れるには、「津波より確実

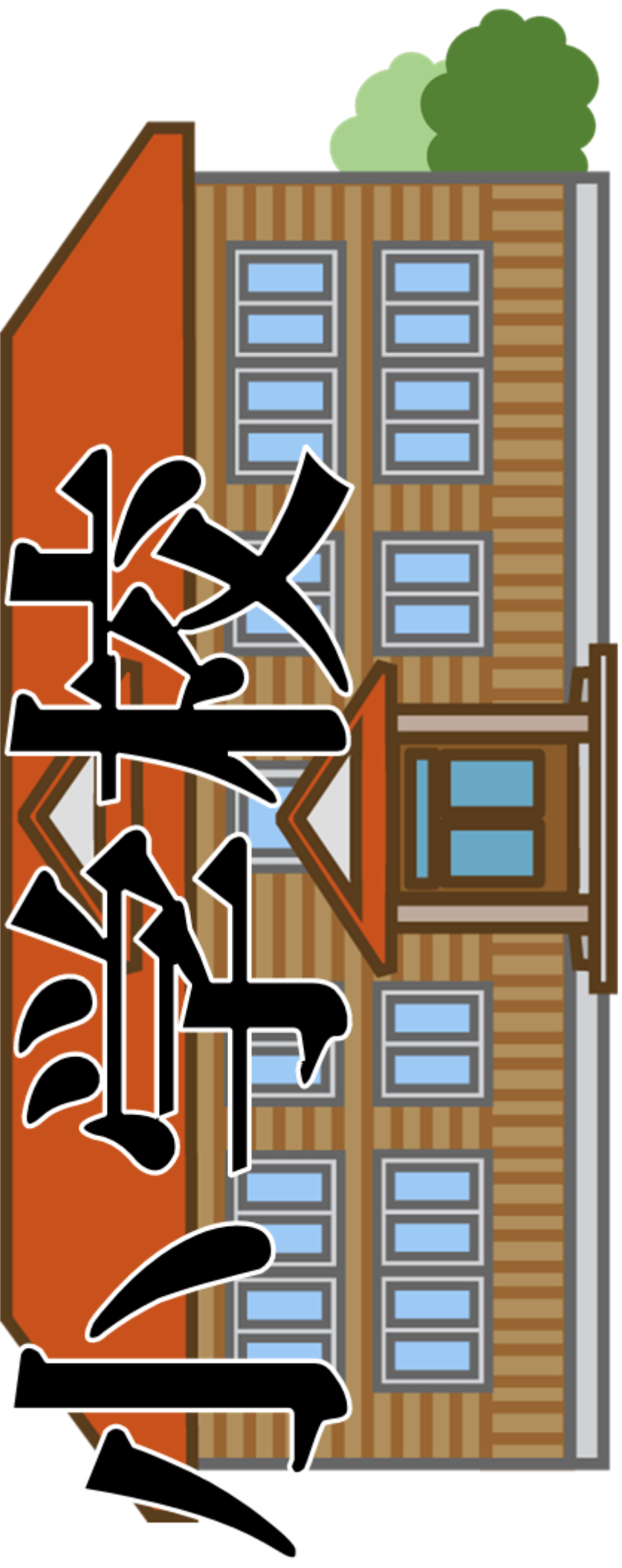
に高い場所にいる」以外に道はありません。そして、災害時に迷いなく行動するには、

予め、どう行動するかを決めておくことが大切です。

ダイレクトロードを体験した皆さんは、きっと冷静に行動できるはずです。
これでダイレクトロード「初めての町」を終わります。お疲れ様でした。

あなたは小学校に迷り着きましたが、子ども達の姿はありません…
校舎には屋上がなく、体育館には鍵がかかっています。
その時、建物の向こうに凄まじい勢いで迫ってくる津波が目に入りました。
…あなたは恐怖で体が硬直し、もう動くことができませんでした…

山崎山



あなたは町役場を目指し、手塩川にかかる橋を渡っています。
橋の向こうに町役場が見えますが、人影は見当たりません…
その時、凄まじい勢いで川をさかのぼってくる津波に気づきました。
あなたは腰を抜かし、動くことができなくなりました…

山折川



あなたは安敦寺に到着しました。周りのよりも数m高くなっているとは言え、凄まじい勢いで川をさかのぼってきた津波に、あなたはのみ込まれてしまいました。安敦寺は、時に流れに逆らうほどに荒ぶる手塩川を鎮めるため、川のほとりに建てられていたのでした…。

山折門



あなたは米塩広場に留まり、念のため、広場に面している旧公会堂の2階に
あが
上がりました。

数分後、真つ黒な津波が広場を覆い、あなたは建物ごと濁流にのまれました。
ひろば
広場には最初から、津波は来ないと思う住民しか、残っていなかったのです…



あなたは浜一里神社の鳥居をくぐり、石の階段を駆け上がりました。
途中、脇に並ぶ灯笼は全て倒れていましたが、幸い、土砂崩れは起こらず、
社殿まで辿り着くことができました。
町を見下ろすと、真っ黒な津波が町並みのみ込んでいくところでした…

054011



小学救

小学救

小学救

魚紋鵝

魚紋鵝

魚紋鵝

致 齋 節

致 齋 節

致 齋 節

米 鹽 止 鷄

米 鹽 止 鷄

米 鹽 止 鷄

浜 一 里 海 社

浜 一 里 海 社

浜 一 里 海 社

里洲本旧市街 観光MAP

●町役場

●コンビニ

●郵便局



●銀行

手塩川



●安教寺

4m高い

手塩茶屋

●呂塩公園

川の流れ

旧市街駅

●CafeRoca

和洋折衷の町並みを街中ば
楽しい発見が待っています。
お店をめぐって、懐かしくも
新しい景色を探してみてね。

●甘味処
なざれ
●真虎商店

●コパン

●カステラ堂

●ばってら屋

●しゃぼん

●ペレンの塔
マント
資料館

●帯斗ストア

●蹴鞠
倶楽部
旧勤業館

●かるめら亭

●米塩広場

時計台

●現在地

●金平糖
旧公会堂

●黄茄子茶房

●コンビニ

●三六寺
●ケルス
珈琲館

●セレソソ
●ぼうる庵

●有葉兄弟社
●有葉

●権三郎商店
●歴史館

●かるた屋

●喫茶Bena

●三日月骨董店

●浜半里神社
●チャルメ
楽器館

●Kappa
●バダリアーア

●太郎記念館

●キタンダ
旅館屋
里洲本

●ビスケット工場

子どもの列

●MYコロック

2km



●浜一里神社

こんもりした山

さらに2km先に海

●小学校

●びいどろ
博物館





課題シートⅡ

課題1 順不同

避難先候補を列挙し、それぞれの安心材料・懸念材料を書き出してください。

1	町役場	安心	町の職員がいて情報も人も集まるだろう
		懸念	川に近い 海に近そう 米塩広場より低そう
2	小学校	安心	災害時の避難先と言えば小学校
		懸念	海に近そう 米塩広場より低い 子どもたちは別の場所へ避難？ 周りが開けていていそう
3	安教寺	安心	米塩広場よりは4m高い
		懸念	川に近い 何かの鎮め寺
4	米塩広場	安心	土地勘がない町を動き回らなくて済む 地元住民の意見
		懸念	標高が分からない 安教寺より4m低い
5	浜一里神社	安心	小さな山(高い場所) 神社は災害に強い説
		懸念	数年前に土砂崩れで参道埋まった

課題2

どこに避難するか決断してください。
選んだ人の名前
人数

		0 人
		0 人
		0 人
		0 人
	〇〇、〇〇、〇〇 〇〇、〇〇、〇〇	全員 人

ダイレクトロード「初めての町（短縮版）」情報カード意味

1	ある観光客 「災害時の避難先と言えば小学校だろうから、私は若上にある小学校に行くわ」	避難先候補の1つ 「小学校」	12	自宅から出てきた女性 「浜一里神社はこんもりした小さな山なんだけど数年前に夢遊が唾まる土砂崩れがあったよ」 	浜一里神社は標高が高いが、土砂崩れという他の脅威への危機を示唆
2	ある観光客 「地図で見るとなんだか周りが開けていそうだから、私は左下にある安敦寺に向かいます」	避難先候補の1つ 「安敦寺」	13	米塩広場には津波が来ると言う地元住民が誰もいないのは、なぜ？ 	津波が来ると思った住民は別の場所に避難している逆淘汰の状況に気づけるか？
3	ある観光客 「こんな時に土地勘がある町民のやみに動き回るのは危険。私は米塩広場に留まりたい」 	避難先候補の1つ 「米塩広場」 視認できるので画像あり	14	地元の高齢男性 「わしはこの町で生まれ育ったが、津波なんか一度も来たことはない」 	正常性バイアス目つ 経験の逆作用
4	ある観光客 「神社は災害に強い場所にあるという説があるから、わしは右下の浜一里神社に行こうと思う」	避難先候補の1つ 「浜一里神社」	15	地元の高齢男性 「余震が続く中で山に行ったら、土砂崩れに巻き込まれたら、あなた、責任取れるのかい？」	リスク天秤バイアス
5	ある観光客 「町の職員がいて情報も人も集まってくるはずだから、僕は左上にある町役場に行ってみる」	避難先候補の1つ 「町役場」	16	広場から通りを通過しても、建物がバタバタと倒れているようには見えないが、余震もあるから小さな通りに入るのは危ないだろう。	正常性バイアスを誘発する都合の良い情報と避難時に路地は危険という豆知識
6	ある観光客 「地域に詳しい地元住民の意見に従っていけば安心だ」	同調性バイアス	17	自宅から出てきた女性 「安敦寺は米塩広場より4mは高い」 	山より低い米塩広場より高い選択肢 真ん中を選びがち な松竹梅の法則を誘発
7	 「でも旧市街には耐震台を据えるような2階建て以上の建物は無い…」	二階建て以上の建物が無いことおよびこの雑誌を骨折の固定措置に使うことを示唆	18		議論の堂々巡りを戒めるメッセージ (ペンローズの階段)
8	近所に住む女性2人 「安敦寺は緑の寺だって聞いたことあるけど」「川のほとりで荷を頼めてるのかしら？」 	安敦寺が災害伝承碑であることおよび川に近づくのは危険であることを遠回しに暗示	19	太郎記念館がある方向を見ると、遠くの通りを子ども達の列が左から右へ移動していきのが見えた。	子ども達が小学校から浜一里神社方向へ避難していることを示唆→小学校は危険
9	近所に住む女性2人 「津波なら高い場所へ逃げれば良いけど」「1年前の天津波襲撃でも来なかったわ」 	津波避難の鉄則と経験の逆作用	20	助けた女性が雑誌を見せてくれた。 	IIの情報と合わせて川の流れの向き（海の方）が分かる
10	通りのすがりの地元男性 「ここは海からは解れているので、余震が収まるまで広場にいた方が安全ですよ」	地元住民に海に近いという認識がないことを示唆	21	歴史館の観光案内板を見つけた。 	鬼門の方角（北東）から東西南北が分かり、伝承から海からの距離（4キロ）が分かる
11	手塩川はどっちに向かって流れているんだろう？ 流れの先は海はなはず…	川は海に繋がっていることおよび川の流れて海の方角を推測できることを示唆	22	露天神輿の会話が聞こえてきた。 「旗籠屋津本から、ひいどろ博物館へは下り坂で、車いすだと少し怖かったのう」 「そうでしたねぇ」 	小学校は米塩広場よりも低い場所にあることを示唆